

科目名	作業療法研究法Ⅱ						
担当講師	西城学 細川康紀 岡崎謙治 高橋正基 田中弘美 竹田敦子 細越友貴 山川志野						
実務経験の概要	西城 学 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 細川 康紀 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 岡崎 謙治 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。 高橋 正基 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 田中 弘美 : 作業療法士。療育施設、発達領域において実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 細越 友貴 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 山川 志野 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	4	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 演習 オムニバス						

授業概要

作業療法研究法Ⅰの内容を踏まえ、課題解決のための問題点の抽出と研究計画、実施、発表の一連の過程を実施し、将来的な作業療法研究活動の基盤を養う。

学修到達目標

1. 調査研究、実験研究などの研究を指導を受けながら計画・実施できる
2. 実施した研究の成果を発表・文章化できる
3. 主体的に問題解決へ向けた取り組みができる

授 業 計 画

第1回	オリエンテーション	岡崎謙治	他
第2回	研究計画書作成（1）	岡崎謙治	他
第3回	研究計画書作成（2）	岡崎謙治	他
第4回	研究計画書作成（3）	岡崎謙治	他
第5回	研究計画書作成（4）	岡崎謙治	他
第6回	研究データ収集・研究データ分析（1）	岡崎謙治	他
第7回	研究データ収集・研究データ分析（2）	岡崎謙治	他
第8回	研究データ収集・研究データ分析（3）	岡崎謙治	他
第9回	研究データ収集・研究データ分析（4）	岡崎謙治	他
第10回	研究データ収集・研究データ分析（5）	岡崎謙治	他
第11回	研究データ収集・研究データ分析（6）	岡崎謙治	他
第12回	研究データ収集・研究データ分析（7）	岡崎謙治	他
第13回	発表準備・研究論文作成（1）	岡崎謙治	他
第14回	発表準備・研究論文作成（2）	岡崎謙治	他
第15回	発表準備・研究論文作成（3）	岡崎謙治	他
第16回	発表準備・研究論文作成（4）	岡崎謙治	他
第17回	発表準備・研究論文作成（5）	岡崎謙治	他
第18回	発表準備・研究論文作成（6）	岡崎謙治	他
第19回	発表準備・研究論文作成（7）	岡崎謙治	他
第20回	研究発表（1）	岡崎謙治	他
第21回	研究発表（2）	岡崎謙治	他
第22回	研究発表（3）	岡崎謙治	他

評価方法

研究発表（50％） 研究論文（50％）

教科書

資料を準備する。

参考図書・文献

講義の際に紹介する

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

自分自身での課題を明確にし、計画的に取り組むようにしてください。

科目名	作業療法管理学Ⅱ						
担当講師	西城 学 高橋 正基 田中 弘美 細越 友貴						
実務経験の概要	西城 学 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 高橋 正基 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 田中 弘美 : 作業療法士。療育施設、発達領域において実務経験を有する。 細越 友貴 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	4	単位数	2	時間数	60	開講時期	前後期
授業形態	講義 グループワーク オムニバス						

授業概要	
<p>作業療法の職場管理において求められる臨床教育の基本について、養成教育の歴史・臨床実習教育・国家試験制度・生涯学習制度の観点から、後進の育成に関する基本について学ぶ。</p> <p>また、上記に付随して、これまで学習した内容について統合し、整理していく。</p>	

学修到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士養成教育の歴史と内容について、説明できる 2. 作業療法士国家試験の出題基準について、説明できる 3. 作業療法参加型臨床実習における理論背景を説明できる 4. 生涯学習制度について、説明できる 5. 学習した内容について、統合し整理することができる 	

授 業 計 画		
第1回	養成教育の歴史と内容（1）	田中弘美
第2回	養成教育の歴史と内容（2）	田中弘美
第3回	作業療法参加型臨床実習の概要（1）	西城学
第4回	作業療法参加型臨床実習の概要（2）	西城学
第5回	臨床教育の方法（1）	西城学
第6回	臨床教育の方法（2）	西城学
第7回	臨床教育の方法（3）	西城学
第8回	国家試験出題基準（1）	高橋正基
第9回	国家試験出題基準（2）	高橋正基
第10回	国家試験出題基準（3）	高橋正基
第11回	生涯学習制度（1）	細越友貴
第12回	生涯学習制度（2）	細越友貴
第13回	生涯学習制度（3）	細越友貴
第14回	生涯学習制度（4）	細越友貴
第15回	生涯学習制度（5）	細越友貴
第16回	課題解決型学習（1）	西城学
第17回	課題解決型学習（2）	西城学
第18回	課題解決型学習（3）	西城学
第19回	課題解決型学習（4）	高橋正基
第20回	課題解決型学習（5）	高橋正基
第21回	課題解決型学習（6）	高橋正基
第22回	課題解決型学習（7）	細越友貴

第23回	課題解決型学習（8）	細越友貴
第24回	課題解決型学習（9）	田中弘美
第25回	統合的学習（1）	西城学
第26回	統合的学習（2）	西城学
第27回	統合的学習（3）	高橋正基
第28回	統合的学習（4）	高橋正基
第29回	統合的学習（5）	田中弘美
第30回	統合的学習（6）	田中弘美

評価方法
提出課題（100%）

教科書
標準作業療法学 作業療法概論（医学書院）

参考図書・文献
なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)
<p>事前事後ともに30分以上の学習。</p> <p>必要に応じてグループごとに調べ学習、ディスカッションを行ってください。</p>

科目名	総合実習						
担当講師	西城学 細川康紀 岡崎謙治 高橋正基 田中弘美 竹田敦子 細越友貴 山川志野						
実務経験の概要	西城 学 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 細川 康紀 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 岡崎 謙治 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。 高橋 正基 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 田中 弘美 : 作業療法士。療育施設、発達領域において実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 細越 友貴 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 山川 志野 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	4	単位数	16	時間数	720	開講時期	前後期
授業形態	実習						

授業概要

作業療法参加型臨床実習の形態をとり、見学・模倣・実施のプロセスを進めていきます。臨床教育者のもとで一連の作業療法過程を通して、臨床技能の習得を目的としています。また、その中で臨床教育者からの説明やディスカッションを通して、臨床思考過程の理解を深めるとともに自身の考えを説明することができることも目的としています。

学修到達目標

1. 臨床教育者の指導・援助のもと作業療法（臨床技能）を実施することができる。
2. 臨床教育者からの説明（臨床思考過程）を受け、その情報の意味を関連付けるとともに自身の考えを述べることができる。
3. 臨床教育者からの指導を受けながらリハビリテーションチームの一員としての行動をとることができる。
4. 実習を通して、自己の学習課題に気付くのみならず、改善するための主体的な行動をとることができる。
5. 実習を通して、得られた情報をもとに整理し、述べるができる。

授業計画

実習期間

総合実習Ⅰ：令和6年4月30日(火)～令和6年6月26日(水)（40日間）

総合実習Ⅱ：令和6年7月16日(火)～令和6年9月17日(火)（40日間）

実習施設

医療提供施設

実習内容

1. 臨床技能（情報収集、面接、観察、検査測定、治療、再評価）場面の見学、模倣、実施
2. 臨床教育者から説明を受け、情報の意味や関連性をまとめるとともに自身の考えを述べる
3. 臨床教育者からの指導を受けながら主体的にリハビリテーションチームの一員としての行動をとる
4. 日々の自己の取り組みを振り返り、修正する

客観的臨床能力試験（OSCE）

実習前後に客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。

実習後セミナー

- ・実習後に症例報告書を作成し、発表を行う。
- ・教員とのフィードバック面談を行う。

評価方法

各期の実習は、実習地評定（30%）、セミナー評定（20%）、記録物（30%）、フィードバック評定（20%）を踏まえて総合評価を行います。

また、実習前後に客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、各期の実習評価と客観的臨床能力試験の評価結果を踏まえて最終的に総合評価を行います。

教科書

なし（配布資料あり）

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

これまでの実習で見つかった課題への取り組みと、臨床に必要な最低限の知識、技術の復習を行い臨むこと。